

# 矢作川流域圏懇談会通信

R5 山部会編 vol.3



発行日：令和5年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第68回山部会WGを開催しました！

9月15日(金)に第68回山部会WGが上矢作町にて開催されました。WGでは、テーマ別の活動進捗状況の報告と協議を行いました。また、恵那市の森づくり、安藤林業の取り組みについて話題提供いただきました。

日時：令和5年9月15日(金) 13:30~17:05

場所：上矢作町 上矢作コミュニティセンター

参加者：22名(内オンライン参加4名) ※事務局を含む



## ◆主な会議内容

### 1. テーマ別の活動進捗状況の報告

令和5年度の活動進捗について、4つのテーマごとに以下の報告がありました。

#### ■流域圏担い手づくり事例集

これまでの事例集づくりの経緯と今年度の計画について以下の報告があった。

- ・今年度の事例集は、昨年度に続き1つのプロジェクトを対象としてまとめていく。今年度は、伊勢湾・三河湾の海の豊かさを取り上げる予定。海の豊かさ、海から得られる流域への恩恵等について海部会との連携で進めていく。
- ・2023年度は、2019年度以降中断していた「事例集交流会」を開催できた。

#### ■山村ミーティング・森づくりガイドライン

7月20日に実施された「矢作川水源の森づくり合同研修会」からの展開について以下の報告があった。

- ・7/20 豊田森林組合にて、に愛知・岐阜・長野の3県の森林組合が合同で、林業現場技術者の人材育成方法を学ぶことを目的に研修会を行った。現在、安全管理や人材育成等に関する研修会での成果をとりまとめており、今年度中に冊子として共有する予定である。
- ・9/10の矢作川感謝祭では、「Dr.トーコのほろ酔い河畔林観察会」として、洲崎氏を講師に河畔林の観察会を行った。

#### ■森づくりガイドライン

矢作川流域圏における近年の間伐面積の実績として、事務局より岡崎市・豊田市・恵那市・根羽村・平谷村の伐採面積の統計値の報告があり、流域における間伐や皆伐の現状についてデータの確認と協議を行った。

#### ■木づかいガイドライン

9/1~2に実施された「根羽村・林業のミライ合宿」の状況について以下の報告があった。

- ・信州大学・岐阜大学・人間環境大学・名古屋市立大学の学生が企画し、根羽村森林組合・根羽村役場・根羽村住民が対応し、木材の生産者とユーザーのつながり、林業と地域社会との関係について学び考えることを目的に実施した。
- ・1日目は「木材がどうやって作られ、どのように使われるのかを学ぶ」をテーマに、根羽村森林組合・製材所の見学、間伐体験、板倉構法に関するトークセッションを行った。2日目は「林業と山村地域の関わりについて考える」をテーマに、根羽村の年配の方々との交流・インタビュー、合宿を通じて気づいたこと・学んだことの発表会を行った。

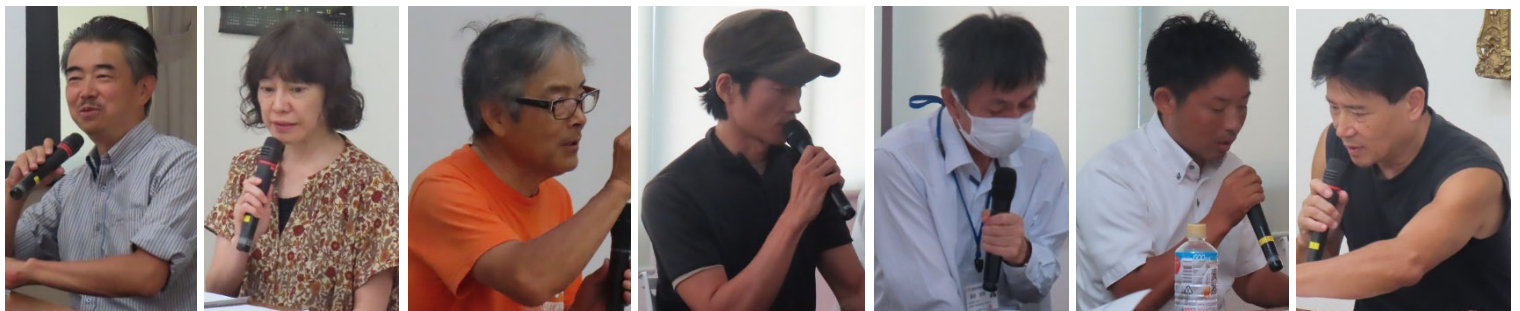
### 2. 話題提供：①恵那市の森づくりの状況 ②安藤林業の取り組み

#### ①恵那市の森づくりの状況(恵那市林政課 原田宏明氏)

恵那市の森林の現状、「えなの森林づくり実施計画」に基づく具体的な取り組みと実施状況、恵那市の林業における課題について報告していただきました。本計画では、1 森林資源の活用を進める取り組み、2 森林の多面的機能を守るための取り組み、3 森林を支える人・地域を育てる取り組み をベースに各種事業が展開されています。

#### ②安藤林業の取り組み(株式会社 安藤林業 安藤雅人氏)

(株)安藤林業が進めている「100年先の森づくり」について、森林整備や管理に関する課題や問題点について説明いただき、「いのちの山プロジェクト 100年先の森づくり 越沢もみじ計画」の内容と実施状況について報告していただきました。本計画では、100年先の森を見据え、災害に強い、自然環境に配慮した山づくりへの取り組みが計画・実施されています。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●テーマ別の活動進捗状況

#### ■流域圏担い手づくり事例集

- ・海関係の方々がメインとなるが、魚付林など沿岸部森林の整備は対象となるのか？(今村)
  - ▶魚付林に関する森林の整備活動は、私が知る限り伊勢湾流域圏ではあまり聞いたことがない。(近藤)
- ・海の問題に対して山はどうあるべきか。いろんな視点が必要で、流域全体で見たいと思う。(近藤)
- ・山と海をつないでいるのが川。栄養塩については、矢作川を流れる分と終末処理場を通して流れる分のバランスをとらないと海と山はつながってこないと思う。そのあたりを検討・提案する必要がある。(高橋)
  - ▶問題は都市だと思う。「都市のいいとこどり」から山・川・海の恵みや役割について整理したい。(近藤)

#### ■山村ミーティング・森づくりガイドライン

- ・豊田森林学校で間伐の講習を受けた。そこでできた仲間と活動してきたが、危険が回避できないということで中断してしまっている。(清水)
  - ▶危険と感じた時はプロに任してしまうという判断のところと思う。「これ以上は無理」と思ったらやらないことがアマチュアのレベルと思う。(丹羽)
  - ▶工業関係では安全管理を徹底的にやっている。林業関係もしっかりした安全管理体制を作るほうがよい。(高橋)

#### ■木づかいガイドライン

- ・林業だけでなく、地域社会への貢献などにも関心・愛着を持ってくれたことがよかったと思う。今回、「学び」と「交流」をセットでできたというのがよかったと思う。(西川)
- ・合宿に参加して、当事者意識を持つことの重要性を実感した。また、地域の課題をより深く知ることができた。(石原)
  - ▶合宿では、森林の問題は他人事ではなく、私たちはみな当事者だという認識を持つことを重視した。(近藤)
- ・流域圏懇談会での協議をもとに、「都市のいいとこどり」の視点を共有するための機会をつくっていく。若い人たちと共有する機会の一環として根羽村で体験することが大切ではないかということで、今回の合宿を企画した。(三ツ松)
  - ▶このような企画ができる人的ネットワークがあることがベース。人的ネットワークのベースに流域圏懇談会がある。流域を考える時に、人のコミュニティやネットワークがあることが重要と思う。(近藤)

### ●話題提供

#### ■恵那市の森づくりの状況

- ・ゾーニングの話が出たが、施策にこのゾーニングをどのように結び付けているのかを教えてください。(杉本)
  - ▶木材生産林と環境保全林をゾーニングしている。ゾーニングは内部で検討し、林班単位で指定していく。(原田)
- ・再造林への補助制度も作っているが、再造林をやる人は少ない。再造林すると獣害が発生する。対策への補助も出しているが、なんともならないというのが現状。(原田)

#### ■安藤林業の取り組み

- ・植林した後の獣害対策はどうしているのか？(丹羽)
  - ▶周囲にネットを張っている。ネットを張れば中に入れないので食べられなくなった。1カ所入っても全部食べられないような工夫をしながら取り組んでいる。(安藤)
  - ▶根羽村では最初は単木防護柵でやったが、周囲防護柵も設置している。誘き寄せて捕獲することも検討している。課題は共通すると思うので、今後、いっしょに取り組んでいきたいと思う。(今村)
- ・皆伐による土砂崩落の危険については、どのように判断しているのか？(丹羽)
  - ▶真砂土のところでの大規模な皆伐は災害につながることから、1年で1haずつ皆伐・再造林、大雨の時の点検や修復を行っている。真剣に山づくりをしていかないと、真砂土の地域では皆伐・再造林はできないと感じた。(安藤)
- ・現場を見たが、皆伐している所の中にパッチ状に伐り残してあったが、何か理由があるのか？(蔵治)
  - ▶山が急なので、上で倒した木が止まるための木を残している。残した木も伐採する予定。(安藤)
- ・伐採してから10~20年の間が一番崩れやすい。その危険について住民の認識はどうか？(蔵治)
  - ▶皆伐に伴う災害の危険性について住民に説明した。この地域は20年前の東海豪雨災害でその怖さは認識している。この時は、木が植わっていないところが崩れたわけではなく、立木ごと流出している。(安藤)

### 今後のスケジュール(予定)

中間報告会 日時：令和5年11月13日(月)14:00~

場所：愛知県西三河総合庁舎 10階大会議室

### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田  
TEL 0532(48)8107

\*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所までお送りください。





発行日：令和5年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆◆上矢作町「あんきな家」での座談会、養蜂場の現場見学を行いました！

上矢作町を拠点に活動されている加地浩氏の活動拠点を訪問し、移住とコミュニティの形成、ニホンミツバチの養蜂について座談会形式でディスカッションしました。座談会の後、養蜂の現場を見学させていただきました。

日時：令和5年9月16日（土） 9:15～11:30

場所：恵那市上矢作町「あんきな家」

案内：加地 浩 氏

参加者：11名（事務局を含む）



### ◆フィールドワークの記録

#### 「あんきな家」と座談会（移住とコミュニティの形成、ニホンミツバチの養蜂について）



地元の間伐材で作った「あんきな家」



「あんきな家」での座談会



【加地さんとの座談会の主な内容】

#### ■移住とコミュニティの形成について

- ・定年後、田舎暮らしがしたいということで、12年前ころから移住先をさがし、恵那市上矢作町に移住した。
- ・田舎暮らしでは地域とのコミュニティが重要。お祭りの時の手伝いとかをしながら、地元との交流を深めていった。
- ・田舎暮らしのおもしろさを情報発信した。地元の間伐材で建てた「あんきな家」を情報発信・コミュニティの拠点としていきたい。
- ・外から見た田舎暮らしをイメージしながら、いろんなことにチャレンジしている。活動することによって、コミュニティが形成されていくと感じている。これからは、自分から提案し、地元や外を取り込むような活動を進めていく。

#### ■ニホンミツバチの養蜂について

- ・ニホンミツバチの養蜂活動は、この地域だけではなく、広く展開させている。養蜂に関する講習会なども実施している。
- ・ミツバチを飼育する上で大事なのはよい蜜源があるかどうかという点。トチノキなどの広葉樹の花はよい蜜源になる。広葉樹林が少なくなっており、良い蜜源が少なくなってきた。
- ・最近、ニホンミツバチ自体が減少傾向にある。蜜源の問題もあるが、農薬の影響が大きい。畑や田んぼでは、除草剤、殺虫剤、ネオニコチノイド系農薬が当たり前に使われている。ミツバチが巣に帰れなくなり、突然いなくなる。
- ・山と川と海はつながっている。山の中の落葉が土を作り、養分の豊かな土が川を流れ、魚が育つ、海が育つ。まさにそれが流域と思う。全体で考えなければいけない。

### 養蜂場の見学



重箱式巣箱とニホンミツバチ



養蜂場の見学風景と、作業小屋での記念撮影



#### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

\*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所までお送りください。

